

### 第3期 熱海市図書館協議会 第3回会議結果

開催日時	令和4年1月20日（木）
開催場所	熱海市立図書館 第2会議室
出席者	【出席委員】太田委員・山口委員・小澤委員・石橋委員・関口委員 春日委員 【事務局】図書館長・図書館管理室主幹
会議内容	<p>1. 開会（事務局）</p> <p>皆さんこんにちは。本日はお忙しいところお集まりいただきましてありがとうございます。定刻になりましたので、ただいまより第3期第3回図書館協議会を開催します。初めに会長よりご挨拶をお願いします。</p> <p>（会長）</p> <p>本日の議題につきましては、前半に提言を決める。後半にプランについて決めていきます。また、学校図書室の訪問は私から要望していたのですが、コロナが拡大してきているという事で、残念ながら延期とさせていただきます。以上よろしく願いいたします。</p> <p>（事務局）</p> <p>ありがとうございました。熱海市立図書館条例施行規則に基づき、会長が議事進行を務めます。会長よろしく願いします。</p> <p>（会長）</p> <p>資料にあります提言につきましては、皆さんから寄せられた意見を私がまとめたものですが、このまとめに対して提案していただいた皆さんに内容を確認し、ご意見があれば承ります。</p> <p>まず1ページ目、これは以前皆さんにお配りした全国の図書館協議会についての説明。それから、2ページにまいりまして、これはすでに皆様にお話ししてあります。3ページ目は具体的な提案。3の具体的な提案の（1）熱海の歩みを学べる図書館。4ページ目、図書館ホームページに「熱海を知る」というフォルダを作り、その中に社会科見学で教員や生徒が必要とするであろう資料をまとめたフォルダを作る。前回ご提案いただいたように、例えば「丹那トンネル」とかという事ですね。これにつきましては、山口副会長から提案いただいた学校の事前学習の補助として、ホームページ上に参加者全員が閲覧可能な資料を用意する。という提案をいただきまして、これをフォ</p>

ルダ毎にまとめたかどうかを考えました。これにつきましては、後で館長の方から説明があると思いますが、送られてきた資料にも盛り込まれている。

実行プランの16ページですけど、ここに、①資料の保存、閲覧に向けた郷土資料のデジタル化とごさいますて、内容のところで図書館が所蔵する歴史教材としてテーマ別にいろいろな資料があるので、もう少し幅広く、例えば丹那トンネルなら吉村さんの有名な小説がごさいますから、そういったのも併せて入れるようにした方が生徒さんにももちろん先生方にとっても良い資料になるのではないかと考えます。小説とか入れ込んで1つのテーマにあると、指導する立場からはどうでしょう。

(委員)

指導する立場からすると、ある程度まとまっていれば、このフォルダまで開きなさいと全体指導して、後は自分たちでという事が出来るのでその点については有難いと思います。ある程度のものが揃っていると子供達も手に取りやすく資料にあたりやすいという部分があるので有難いと思います。

(会長)

同じ質問ですけど、実際指導する機会のある石橋委員はいかがですか。

(委員)

小説の内容がお子さんが読みやすいようになっていけば、そういうフォルダがあると事前学習をしておけばより深く学べるので有難いと思います。

(会長)

小説の「闇を割く道」は文庫本にもなっているので、丹那トンネルのできる資料を集めてそれを読みやすくしている。これはむしろ先生たちに読んでほしいと言いますか、通勤の行き帰りに読める小説です。

(委員)

私は女性の会で郷土の歴史を知るという事で丹那トンネルの事を調べました。その時にその本に出会って、それをかいつまんで各小学校を回って話をしました。丹那トンネル自体は皆さん日常から知っているのですが、あえてこちらから言わなくても動機づけみたいな感じで、これがいいです、あれがいいですではなくて、関連して子供たちがチョイスしてという動機づけのためにやりました。地域の郷土資料として載せてくだされば、より身近になるのではないかと。子供たちが図書館で本を探していく楽しみというのを残したいという

感じがあります。

(会長)

社会科見学で行く前と行った後に図書館に寄って皆さんに本を借りてもらう事も出来ると思う。

(副会長)

子供達が本が難しいからと入れないとかではなく、読めるか読めないかは関わりなく、そこに入れて良いものであればどんどん入れて、子供たちが読めなければ読まなくてもよいし、頑張って読もうとする子もいるだろうし、そこは基本的なところで少し考え方としてそうしてもらえればと。

(会長)

今では岩波ジュニア新書というものがあるので、大人の物を入れるのは勿論ですけど、それと同様に子供向けの児童書それもやはり重点を置きたい。

同じ問題ですけど、学校で生徒が調べたもので優秀なものを各フォルダに入れて蓄積していけば、よい資料集が出来るのではないかと。ここを関口委員に補足していただければ。

(委員)

毎年、地域の事とかを調べてみたりとか、それぞれの学校の学区内でいろいろなことを調べていて、それを集めたら熱海全体の物が出来るかなと思います。

(会長)

学区内の外の事も知れるような仕組みを作るというものと同時に、先日、澤田政廣記念美術館に多賀小の皆さんが来てくださって、自分新聞というのを作っているようで、自分で澤田政廣記念美術館の感想を書いたものを見せていただいたのですが、良く出来ていまして。ただ先生がおっしゃるには、名前が出てしまうので、個人情報になるので見せるのは良いが、コピー撮るのは遠慮してくださいという事でした。

(委員)

名前を伏せてという部分と名前を挙げてという部分が出てくると、全部親御さんに了承を取らなければならないというのはあると思います。

(会長)

小学校の先生としたら、了承を取るといのは大変なことなのですかね。

(委員)

良いことなので、例えば名前は挙がらないけれど、良い作品なので図書館に寄贈させていただくことはできますかと言って、あまり嫌だという方もいないのですが、稀にいらっしゃるので承諾を取る必要があるのではないかと。

(会長)

それを例えば PDF にしてフォルダに入れるとか、或いは、時間があれば打ち直してフォルダに丹那トンネルについての生徒の感想とか入れていけば、生徒さんはそこを見たいと思うのです。そういった事も出来ればやっていきたいなと思います。

「熱海の歩みを学べる図書館」ですけれど、小中学校の行事予定、教育計画等を把握しておく必要がある。以上について、まず図書館員の中でワーキンググループを立ち上げ、提示案の実現に向けた概要作成に着手していただくことを望む。となっていて、これは結構大変なことだと思うのですよね。是非やって欲しいんですけど、熱海の歩みを学べる図書館の実現に向けて、簡単ではないので図書館できちんとしたワーキンググループを立ち上げて、着手していただくと誠に有り難い。ある程度各学校の社会科見学とか、いつ実施されるのか。その前に今年度はこのフォルダを完成させようとか、学校の行事予定を調整して対応していかないと、一気にやるのは無理なので、例えば来年度は丹那トンネルに特化してやろうとか。そのためには各小学校の行事予定で丹那トンネルに行くのかどうかも出来れば調べなくてはいけないし、そうすると館長から教育委員会に働きかけて、やっていただくといいのはどうか。これが第一点ですね。それから第二点目が「市民が集える図書館」ということで、今はタブレットを持っているという時代になりましたので、それを使って学校の図書室が図書館の窓口になるという事が実現すれば良いなど。実際問題これほどの程度実現の可能性はあるのか、実質的な問題が良く分からないのですが、図書館としてはどうなのですか。

(館長)

会長がおっしゃる通り、十分に協議したうえで私が実行プランを作るのですが、結論から言いますと、私が作った実行プランが定例会に諮られて、GO サインが出ない限りは学校との連携は一切取れません。そこが今ポイントです。まずは実行プランは、小学校に対するアプローチの入り口を書いたものです。

後でご説明しますが、これから発展的に文学ですとか枝分かれしていけばいいのかと個人的には思っていますので、幼稚なプランかもしれませんが、まずは学校との連携をとるプロセスを定例会で認めてもらわなければ前に進めませんので、そこが私の中で悩んでいるところです。

(会長)

教育委員会のお答えを踏まえてこの提言を考えているのでありまして、前回の答申を館長が教育委員会に持って行ったところ、教育委員会の答えとして、市の公共施設をもっと利用してのアピールや、各部と連携したイベントなどのサービスをお願いしますと。教育委員会はこう言っています。こう言うにおいて、連携をとるのはいけないなどと言いますかね。

(館長)

それは言わないと思います。内容を気にしてくると思います。

(会長)

そこは館長に頑張っていただくのと、小中学校の図書室が図書館の窓口となるという事を提案していて、実行プランの22ページにすでに盛り込まれております各学校の予約した本を隔日配達することや、書籍のセット貸しをすると書かれているのですが、可能ですか。

(館長)

隔週になると思います。学校へは2週間に1回行きますので、それと南方面や湯河原方面へ行く時がありますので、その辺は後でご説明しますが、学校司書さんとの連携が重要になってきますので、出来ないことはありませんので、目標として挙げています。

(会長)

小中学校の教科書を研究し、内容を把握していく必要がある。春日委員の方から教科書で紹介している本を貸し出したらよいのではないかという提案がございましたが、それは結構数が膨大なものになってしまうのではないかと。提案していただいた内容は、学校の教科書に掲載されている本という事です。まず図書館に言いたいのですが、教科書が図書館にない。ちょっとびっくりしたのですが、やっぱり各学校の教科書を揃えて内容を把握することも大事だと思います。国語の教科書に紹介されている本という事ですよね。

(委員)

はい。そのつもりで書きました。やっぱり膨大なので、学校毎に揃えようとするとなんでもない量なので、足りないという風になってしまう。学校か図書館かどちらかにあれば子供の手には取れるのですが、どちらにも無いと読めないという事があった。予算の問題もあるし、6学年で凄い量になります。

(会長)

図書館の蔵書と市内の小中学校の図書室との蔵書をリンクさせて、少なくとも重複を避けて、無い本を揃えていくというようなことも図書館から教育委員会に諮りかけて可能になりませんか。

(館長)

教育委員会の壁が高くて、図書館が提言しても教育委員会の中ではねられるパターンが多いです。会長が言われる通り、本来はリンクするべきものを何でやらないんだと一般の方は思われるのですが、そこはまた学校の校長先生と館長との話し合いを基に始まらないと、システムを統一しましょうという、学校の教育委員会と学校教育課というところが入ってきますので、また細かいところで問題が起きますので、まずは出来るところからやっていくという話になると思います。ダメではないですがなかなかハードルが高いです。

(委員)

学校の図書室の予算というのは、学校によって差があるのでしょうか。そこで、今年はこの本を買いたいとか、セレクトするのは図書担当の先生ですか。

(委員)

はい。各教員から希望を聞いて、司書の先生と相談をして今年はこれと。読書感想文の課題図書は先に買いたいとか、ここは揃えておきたいとか、優先順位を決めて、今年はこちらまでだね、じゃあ来年以降はこちらを買いたそうと揃えていくというパターンが多いです。

(委員)

それと、こちらの図書館とのすり合わせはないのですか。

(委員)

ないです。

(館長)

今までやってこなかったのを、会長のおっしゃる通り図書館がアプローチをかけ、統一していく方向に進まないといけない。

(会長)

なかなかハードルが高そうですね。

(館長)

ハードル高いですけど、やるだけやってみないと分からないことなので。

(委員)

完璧なすり合わせは事業所の数からいってかなり難しいと思うんですけど、その時にはこれだけ買いたいと私が言って、ここまでしか買えないから、この辺りは欲しいと図書館に要望してみるねと言ってくださった。という連携を同じ学校の中でしていた。その位しか出来なく、データを連携というのは十数校はちょっと無理かなと。

(会長)

リストを作るわけですね。リストを全部エクセルで作って、全ての小学校のエクセルと図書館の蔵書とぶつければどれがあってどれが重複しているのかすぐ分かりますよね。

(委員)

私がやっているのは自分のところに無いものを調べて、あればそれを借りてということは出来るのですが、結構無いことが多くて、司書の中でも買って欲しいのでお願いをして、図書館の方ではリクエストしてくれば買いますよというかたちなので、そんなに大量なものを買っていただけるとかってことではないので、出来れば買って欲しいというのは司書の方でも希望はあります。

(副会長)

学校の図書室と図書館の蔵書と熱海では今そういう現状ですけど、他の市町ではいかがですか。

(館長)

山口副会長がおっしゃる通り、全国どこを見てもバラバラです。ですが私がやりたいのは学校連携で何が出来るのかという中で、システムは何でバラバラなんだ、蔵書は何で二重に持つのかという疑問点から入っていますので、それを一個一個潰していきたいと思います。熱海が先行してやれば良いなと思って、現役の春日先生を協議会に呼んだのも私のお願いで来ていただいている状況なので、まずは第一歩からです。

(副会長)

他の市町であるとしたら、どういうやり方でどのくらい時間をかけてどういう仕事をしたのかっていうのが分かると勉強になるなど。

(委員)

7～8年前ですけど、秦野市でこういう事がありました。図書が出ると、学校側は図書のリスト親に配って、うちはこれを買いますと親がまず買ってくれる。親が買わない分を学校で買うと。プラス、先生方やPTAが活躍してくれて、更に値段が高くなるものを秦野市の図書館で買おうという感じで出来上がっていたのですね。

(会長)

各部署と連携して少なくとも市内の小中学校の図書室が連携しないなんてことは非合理的だし、予算も必要ですし、そこは館長に頑張ってください。

5ページ④の調べ学習・社会科見学との連携ですけど、どうでしょうか。

(委員)

ミカン学習については第一小でして、調べ学習時に資料を用意して下さいと言われたのですが、なかなかミカンの部分について資料がなくて、探すことがなかなか出来なくて、こういった学習に関わるものを買っていただけるといいなど。ピンポイントでミカンとか大根とか郷土の特産品を学ぶ資料等があればいいなど。

(会長)

次に「市民と共に創っていく図書館」なんですけど、ボランティア活動の受け入れというところで、石橋委員から頂いたのですか、これは枠を超えて熱海高校の生徒さんたちを受け入れれば良いのではないかと。これは、声をかければ来てくれるものなのではないでしょうか。



(委員)

来てくれますね。やっぱり地元と繋がりたいという思いがすごくありまして、子ども食堂なんかもさんざん参加してくれまして、文化祭で子ども食堂を開いてその売上げを寄付して下さったり、学生さんもそういったボランティアが大学入試の AO 入試に書けたり、それで来る方もいらっしゃいます。子供達もちょっと大きいお兄ちゃんお姉ちゃんも好きですし。向こうから来たいと申請がありまして、熱海の行事なら殆ど参加して下さると思います。この間も怪獣のラインアスロックの自衛隊とか海上保安庁が来た時も手伝う事になっていたのですが、コロナが蔓延してしまって、高校生の親にも承諾書を取らないといけないといけなくなり、同意書が大変なのでと無くなってしまいました。そういう公的な行事も来てくださる。お声掛けすれば好意的に参加していただけます。

(会長)

そうなのですね。図書館としてはどうでしょう。

(館長)

可能性はあります。熱海高校の生徒とは以前ボランティアで来ていただいたこともありますので、可能だとは思いますが。

(会長)

パソコンの操作だとかそういうのは若い方の方が出来ると思いますので、来てくれた高校生が中学生や小学生を指導するというようなサイクルが出来ればとても理想的だと思います。同じく石橋委員からのご提案ですが「公民館 寺子屋：夏休み&冬休みの宿題学習との連携」ということでいろいろ教えていただいたのですが、10日間の学習の中に「図書館へ行こう！」講座を設けるといことですが、今現在はないのですか。

(委員)

次回、起雲閣か大湯間欠泉を図書館に案内して、熱海の歴史をその場でその日に教わるのですが、それを膨らませて、図書館の資料調べをして行くなり、事前学習・事後学習を入れることはいくらでも出来るなと思います。それぞれの塾長の考えで図書館で何をしてもいいと思うのです。工作とか夏休みの宿題とか自由研究とか使い方はいろいろ各塾長さんの考えでいいと思います。私は歴史学習の事前学習もいいなと思っています。

(会長)

分かりました。皆さんからご意見をいただいて、具体的な修正案はここではまとめられませんが、第三期の協議会の内容をホームページに載せたいので確定するには、もう一回書き直して皆さんに目を通していただいて載せるということになるのですが、その手はずでいいですか。

(館長)

協議事項は掲載できますので、修正を加えた後でも大丈夫です。

(会長)

皆さんの意見を踏まえて修正したものを皆さんに目を通していただいて、第3期の提言としたい。では、館長、実行プランの話をお願いします。

(館長)

図書館ですが、平成19年8月に仮の図書館としてここに移転してきた訳なのですが、その際3つのコンセプトを掲げまして、今まで運営をしてきました。それに対して、私が前協議会にこの3つの基本プランを実行するにはという形で諮問した結果、答申という形で出てきました。会長がおっしゃる通り、その諮問した答申について、熱海市の教育委員会に説明をし、協議を行っております。2021年3月に前協議会から答申が提示されております。本日2022年今日の日付けで、現協議会の学校との連携という意見をいただいて実行プランは作成したというような流れになっています。

実行プランというのは即効性がポイントであるので、政策を選び、令和6年度までに終了するという形にしてございます。各課題を解決するための実行プランという形で、作ったのが3つの柱の提案がありますので、それぞれに向けたものでございます。まず初めに、郷土資料のデジタル化ですが、図書館にある古地図ですとか歴史的なものの書籍等があります。それをデジタル化するというものです。取り組みは令和4年から始まり完成を目指してございます。

(会長)

趣旨はとても良いと思うのですが、これは最終的には学校教材用になることを踏まえているのはとても良いと思います。これは市民に向けてもとても良いものになると思うのです。例えば、テーマ別の歴史資料のデジタル化にしてはどうなのでしょう。

(館長)

まず、このポイントですが、生徒たちが持っているタブレットで見られるような仕組みを作ります。そうすると、一般向けではなく、生徒さんが事前学習や郷土学習するためのデータを作ります。それが学校連携という今までの委員の皆様の意見を踏まえたうえでの郷土資料のデジタル化というようなプランです。

(会長)

タブレットで画面で見られるのと、図書館のホームページで見られるのと同じように出来ないのですか。

(館長)

同じようにするには、著作権の問題ですとか様々な問題がありまして、教材用というのは、ある程度使っていていいですよという事になっていますので、まずは、著作権に引っかかっても教材用ならば OK というようなものをピックアップしたデータを作りますと。

(会長)

分かりました。

(館長)

まずはタブレットで生徒たちが見られるものを作ります。学校との調整ですので、何を学校が望むかによって内容が変わってくると思いますが、ここではまずタブレットで学習が出来るというのがポイントです。

続きまして、一般向けのデータベース化でございます。ここでは著作権をクリアしたものを電子書籍の中の公開に載せていくというものでございます。次に、紙ベースで熱海に関する事柄や人物、400件の物がございます。これをデータベース化しまして、誰もが図書館に来られなくても図書館のホームページで見られるものを作ります。

「市民が集える図書館」ということで、レファレンスサービスと司書数という形で、これに関しては、前回の協議会からの答申の内容でございます。「図書館の設置及び運営上望ましい基準」というのが文部科学省から出ております。それに適合するよう司書を増やしていくというようなものです。

次に、図書館サービスという形で利便性向上の話です。前回、答申の中ではもっとブックバスが皆さんの目に触れたり、利用しやすいところ、例えば本庁ですとかマックスバリュですとか、いろいろ提言をいただいたのですが、

まずは出来るところ、令和4年に可能なのは本庁にブックバスを置いて、図書館まで来なくても皆さんが借りられるという市民サービスをしていきます。また、その本をわざわざ図書館に返さなくても、庁舎に返却ポストを置くことで返却できるというものです。次に「市民が集える図書館」についてです。ICTの進化と電子書籍サービスですが、非接触の媒体ですので、その強みを生かしながら今後学校で使っていただけるように令和4年からやっていきたいと思います。最後に「市民と共に創っていく図書館」ですが、利用者ニーズの収集ですが、その中で市民アンケートの実施でございます。図書館のコーナーに意見箱というものがありますが、それだけではなく、広報あたまを利用して市民アンケートの調査を令和4年に実施していきたい。市民ボランティア活動については、各委員さんから意見をいただいた中で、図書館がハブとなり学校と連携して行くヒントを沢山いただいております。これに関しては絶対にやっていかなければものであり、市民ボランティアの方に協力を得なければならないという形で、図書館も努力していかななくてはならないと思います。石橋委員からもありましたように、すぐできる事業だと思っています。寺子屋事業っていうのは生涯学習課になりますので、庁内で連携して、図書館が何を出来るのかというよりも、何を求められるのかという事ですが、やっていきたいと思う事業です。令和4年2月の定例会にこの実行プランを協議いただくように持って行って、令和4年度から実施していきたい訳です。どのようになっていくかは私も分かりませんが教育委員会からOKが出ないと始まりませんので、ご意見をいただきながら、これはちょっと違うんじゃないのというご意見があればよろしく願います。

まず初めに、実行プラン課題1の解決策に向けて「資料の保存・閲覧に向けた郷土資料のデジタル化」につきまして、これでよろしいでしょうか。

(副会長)

郷土資料を2つに分けて、子供たち向けと一般向けと分けて作るのですか。

(館長)

著作権がとれるものならば一般向けに流していきます。著作権がとれなくても、学習向けであればそちらは児童に向けての作成になります。

(副会長)

内容とか難解度等の掲示の仕方というか微妙に違和感があるのですが。

(館長)

学校向け教材については、入門編の易しい絵ですとか分かり易いものをしていく。一般向けに関しては、そこに文学ですとか難しいものを付けていこうかなと考えています。作り方自体を変えるわけではなくて、レベルを変えていくイメージをしていただければいいと思います。

(副会長)

作り方が、2つ作らないといけないという事ですね。

(館長)

そうですね。正確には2通りで、どんどん深堀していくようなものが一般向けで、入門編が学校向けという形です。その他に紙ベースの熱海を調べた400件のものがありまして、それが毎回毎回テレビ局から同じようなことを聞かれますので、これを図書館のホームページから検索できるような仕組みを作っております。これは現在進行中です。令和4年度を待たずして、ゆくゆくはみられると思います。これは一般向けになります。

③の「熱海の歴史を後世に伝える」に関しては、学校と連携し、熱海の歴史を学ぶフィールドワークという形でご意見をいただいたのですが、ここでは小学校の野外実習事業としての、学校・図書館・ボランティア団体との連携を図っていかなければいけないと思いますが、市内の文化施設をガイド付きで巡るコースや、自然に触れる伊豆半島ジオパークの旅など、学年に応じたメニューを作ると。これは学校とのメニューの作り方が大事だと思います。まずは、熱海の歴史を後世に伝えるという仕事を図書館だけではなく、現在活躍されている市民ボランティアの方の協力を得ながら子供たちに伝えるという内容でございます。ここまでで「熱海の歩みを学べる図書館」という実行プランは終わりです。よろしいでしょうか。

(副会長)

先日ボランティアの会の会議がございまして、図書館ではこんな動きがありますという話をしたのですが、街歩きのガイドは第一小学校と以前から総合学習の時間にさくらの散策路ですとか毎年のようにやらせていただきました。ボランティアの会の方たちも嬉しがって積極的にやりたいという事で、是非働きかけていきたい。

(館長)

是非協力をお願いしたいのと、小学校のスケジュールが大変過密でありまし

て、そこの学習を図書館と連携してやりませんかというお話を持っていかなければならないと思いますので、図書館の方で学校のスケジュールを上手く図書館・市民ボランティアの方と共同で使えるような学習というものにしていきたいと思いますので、ご協力をお願いいたします。

続きまして「市民が集える図書館」ですが、レファレンスサービスと司書数に関しては、図書館の義務ですので頑張っていきたいと思っております。また、図書館サービスですが、これに関しては本庁にブックバスのステーション、返却ポストを置くというような予定になっております。また、学校へ資料のセット貸しについては、関口委員はじめ、学校図書館司書の方と今後相談してどのようにしていくかを決めていきたい。ICT化に関しては、コロナ禍にならなければもう少し出来たかと思うのですが、今後も学校サイドの調整も難しい中で、教育委員会の教職員指導室という学校の先生を束ねるところがございまして、そこと連絡を取りながらやっていきたいと思っております。最後の「市民と共に創っていく図書館」でございまして。利用者ニーズに関しては広報あたりに掲載してご意見をいただくという点と、市民ボランティア活動という形で石橋委員はじめ、いろいろな方々と連携をさせていただきたい。これに関しては、教育委員会の定例会の委員さんからも各課連携という言葉が出ていますので、ここはすんなりOKが出ると思っております。ここまで何かご意見はございますでしょうか。

(会長)

話を聞いていて、こんなに盛りだくさん出来るのかしらと素朴に思ってしまうのですが。

(館長)

確かに前々から会長から広範囲すぎるよねと、もっと絞りたいというお話があった中で、私がここにピックアップしたものは、もう出来るだろうと思っているところがあります。自信をもって令和4年からと書かせていただいたのは、石橋委員に協力を得られるだろうとか、関口委員に協力を得られるだろうとかいう甘い考えからでございます。でもこれをやらなければ図書館として1つのテーマだけに固執するのではなく、広範囲に頑張っているとPRしなければならないという点もございまして。皆さんから言われた通り、図書館がハブとなっていていろいろなことをやっていくんだよというような、難しいテーマをいただいておりますが、まずはこの辺で図書館が今頑張っているところを令和4年度見せていきたいなと思っておりますので、また評価の際いろいろな評価をいただきながら、こうしたら良いとかここはもう少し

とかいうような意見が出てくると思いますが、まずは広く頑張ってみますのでよろしく願いいたします。

(委員)

利用者ニーズの収集で広報あたりでというところがあるのですが、ツイッターとかは使えないのですか。

(館長)

ツイッターを使っているのは一方通行で、図書館のお知らせしか載せていない状況です。

(委員)

私も図書館のツイッターをフォローしているのですが、もっと情報があったりとか、新刊の情報ですとか、そこを利用して意見をいただいたりとか、ツイッターであれば若い世代は見てくれるのではないかなど。

(館長)

確かに、新しい情報があればツイッターに入れたり、巡回の変更をお知らせしたりとしていますので、アンケートも入れておきたいと思います。

(会長)

小中学生向け読書感想文の書き方講座というのは、具体的にどの程度までお考えでしょうか。

(委員)

読書感想文の書き方講座というものがあるのですが、それと同じように読書感想文の書き方講座があるといいなと思ひまして、書かせていただきました。以前に、学校図書館の研修を受けたときに、退職した校長先生のご協力を得て、感想文講座をやっていて、親子一緒に参加してくださいという取り組みをしている話を聞きました。もしかしたら熱海市の退職の校長先生でご協力して下さる方がいらっしゃるのだったら出来なくはないかなど、理想で書きました。

(会長)

読書感想文というものは図書館主催なのですか。

(館長)

そうです。

(会長)

それはどなたか講師がいらっしゃるのですか。

(館長)

松山英雄氏です。また、その絵を学校の夏休みの課題として OK にしていただいていますので、すごい人気があります。その辺も学校サイドが良いですよ、夏休みの課題と認めますよと言ってくれています。

(会長)

それも優秀なものは了解を得たうえでホームページに載せるとか、そういう事はなさないのですか。

(館長)

優秀なものは図書館年報の表紙になっています。

(会長)

毎年そのコンクールはやっているのですか。

(館長)

毎年やっていました。コロナになる前までは。コロナで本当にイベントが潰れていまして寂しい限りです。

(会長)

それを今度は、もう少し小学生高学年、中学生へ向けて感想文講座としてやっていくと。

(館長)

OB の校長先生がいらっしゃいますので、お願いすれば可能だろうなど。

(会長)

OB の方もそういう機会があれば活躍して下さるのではないのでしょうかね。読書画が定着しているのであれば、それを踏まえて感想文も発展的に考えれば作りやすいのではないか。



(館長)

そうですね。それを寺子屋でやってもいいのですよね。

(委員)

助かると思います。

(館長)

良いヒントをもらっていますので、ここに書いてある全部は出来ないかもしれませんが、皆さんからいただいた意見を実行していくというのが図書館の使命だと思っています。以上を誤字脱字を直しながら、この実行プランを2月の定例会に議題として提出させていただいてもよろしいでしょうか。

(会長)

実行プランは最終的に図書館が責任主体となってまとめて教育委員会に出すと。その作成過程で協議会の意見をいただくという事ですね。

(館長)

はい。

(会長)

こんなところでよろしいでしょうか。

(事務局)

他にないようであれば、第3回の協議会を閉会します。ありがとうございました。